

A Study on Cultural Resource Management Based on the Ecomuseum Concept

村上, 佳代
北海道大学観光学高等研究センター研究員

<https://doi.org/10.15017/19757>

出版情報：九州大学, 2010, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

序章

0.1 研究の背景と目的

近年、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（以下、歴史まちづくり新法）」（国交省・文化庁・農水省）や「歴史文化基本構想」（文化庁）といった、地域の文化的な資産を保存・活用するための法制度や理念が誕生し、それらを地域の中で総合的に捉え、保存・継承を図りつつ積極的に観光や景観づくりに活用していきこうという動きが展開しつつある。しかし、これまでいわゆる「文化財」として扱ってきた「周知の文化財」は、こうした保存・活用行為の対象となるべき資産のほんの一握りに過ぎず、私たちの身の周りにはそれらよりもはるかに多くの（本来の）文化財が散りばめられている。そうしたものを実際に未来に継承していこうと考えるならば、それは文化財保護行政だけの手に負えるものではない。こうした認識は国政においても広がりつつあり、前述の歴史まちづくり新法や歴史文化基本構想がそうであるように、これからは省庁や分野の縦割りを超えた協働によって大切な資産を保存・活用していく方向へ政策転換がなされていくと見ることができよう。

これを改めて自治体や地域の立場から見ると、文化財を保護行政に押しつけて済ませていた時代から、都市政策＝まちづくり施策としてこれら資産のマネジメントに取り組む時代へと移行しつつあると捉えられる¹⁾。そして、地域の有する資産をいかにして見出し、その一つ一つにどう磨きをかけていくかという課題は、都市間競争にさらされている地域が他との差別化を図る上で最重要テーマの一つであるだけでなく、もう一つの国家的戦略課題である観光立国に対しても当然ながら重要テーマとされねばならない。日本が世界の観光目的地となりうるかは、個々の地域のそうした地道な取り組みの積み重ねにかかっているからである。

本研究では、まず第一に、こうした個々の文化的な資産を「文化資源」と再定義することで「文化遺産」を改めて捉え直し、それらを保護する総合概念としての「文化資源マネジメント」について論究した。

次に、こうした背景のもと、近年、地域社会が主体となって文化資源を生かした

まちづくりを展開できる優れたマネジメント手法とされ、様々な地域で導入が進む「エコミュージアム」の活動に着目した。ところが、確とした理念の下で用語や運用のガイドラインが定められないまま、各団体や市町村が独自にエコミュージアムを解釈、定義して使用しているため、本研究が注視する文化資源の活用におけるエコミュージアムの有効性を十分に理解しないまま導入し、十分な効果を得られていない事例も多い^{注1)}。もとよりエコミュージアムは文化資源マネジメントの手法として誕生したものではないが、本研究では、改めて、その手法としての有効性を明らかにすることを目的として設定した。

0.2 用語の定義

(1) 保護

文化財保護法では、文化財を保存および活用することをもって「保護」であるとしている。本研究においても、保護と記載した場合は、保存と活用を指すこととする。

(2) 文化財／文化遺産／文化資源

文化庁は『文化審議会文化財分科会企画調査会審議報告書』(2007年)において、「文化財保護法に規定されている本来の文化財とは、指定等の措置がとられているかどうかにかかわらず、歴史上または芸術上等の価値が高い、あるいは人々の生活の理解のために必要なすべての文化的所産を指すものである」としており、また「文化財とは、一般的に文化遺産と呼ばれているものを含む幅広いものである」としている。一方で、河野靖は、静的な保存すべき「もの」、伝えるべき「もの」、共有すべき「もの」として「文化財」を言うのに対し、動的な人から人へ伝える「こと」、人間どうしを結びつける「こと」をさらに含んで「文化遺産」と呼び、「文化財は具体的な個々の物件であり、文化遺産はより集合的、抽象的概念である」とし、文化遺産は、モノとコトの総体であるとの認識を示している²⁾。前者は、「文化遺産」という言葉を使わずに保護対象を「文化財」に特定するための、文化庁による法解釈上の言い方であり、後者は「文化遺産」という概念を日本国内で実際に使用する立場からした場合の一般的な理解と言って差し支えないと考える。以上から、本研究においては、「文化遺産」とは、「現代人として生きる我々（人類）にとっての存在価値が説明でき、その価値を子孫にも受け継がせたいと地域が思うモノやコトの総体」と再定義して用いることとする。ちなみにこの定義によれば、歴史文化基本構想における「関連文化財群」や保護法における「文化的景観」の個々は、いずれも一つの文化遺産ということになる。また以上から鑑みると、文化遺産とは、その本質的価値を説明するためのストーリーとその価値を構成する有形・無形、動産・不動産のあらゆる要素から成り立つものであると言え、本研究では、この文化遺産の個々の構成要素を「文化資源」と呼ぶこととする。

以上のように「文化財／文化遺産／文化資源」を分類するが、本研究における文

化資源・文化遺産概念の詳細については、第 1 章で詳述する。

(3) 顕在化と周知

本論文中には、文化資源の顕在化、文化資源の周知という似た用語が使用される。本論文での顕在化とは、価値に気付いていない、もしくは存在に気付いていないなどの状況から、調査等を通じて明らかにすることや住民や行政の気づきを指す。一方、周知とは、文化資源や文化遺産のデータベースを公開するなど、情報を発信する側が情報を広く知らせることを言う。

0.3 研究の方法

本研究では上記目的を果たすべく、(1) 文化資源・文化遺産概念による資産把握の有効性、(2) 遺産保護の総合概念としての文化資源マネジメントの必要性、(3) 文化資源マネジメント手法としてみたエコミュージアムの有効性、という3つの視点を第1章にて段階的に論じ、第2章以降、それを裏付けるための事例研究を行い、最終的に結論を導いた。

0.4 本研究の位置づけ

本研究の目的を果たし、その先に目指すものは、文化財保護法などの法律やそれに伴う補助だけに頼らず、可能な限り住民や民間、行政を含む社会全体でそれらをマネジメントしていくことである。そのために、本研究では、新たな文化資源や文化遺産という概念と、資産の把握や、それらを地域でマネジメントしていくための条件の提示、その手段としてエコミュージアムの有効性等を検証する。

これまで、エコミュージアム学、博物館学、文化財保存学など各々に研究されてきていたことを、本研究では、エコミュージアム概念に基づいた文化資源マネジメント論として学際的な研究と位置づける。

参考文献

- 1) 西山徳明：文化遺産マネジメントとツーリズム，日本造園学会誌，ランドスケープ研究，vol.72, No.2, pp.162-165, 2008, 7
- 2) 河野靖：文化遺産の保存と国際協力，風響社，1995
- 3) 秋元 俊一，鯨坂 徹，萩尾 昌則，菅 順二，加部 佳治，中嶋 徹：要文化財「明治生命館」の保存・再生，建築雑誌 125(1607), 64, 2010-08-20
- 4) 小幡 知之：倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区見直し調査報告書 東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復建造物研究室：鳥取県倉吉市教育委員会、2009 年 3 月、155p., 建築雑誌 125(1605), 70, 2010-06-20
- 5) 三浦 久美子：入間市博物館所蔵 国登録有形民俗文化財「狭山茶の生産用具」について，民具研究 (139), 71-74, 2009-03
- 6) 井浦 和子，井田 秀行：国指定天然記念物「黒岩山」の植物相，志賀自然教育研究施設研究業績 47, 5-14, 2010-3-25
- 7) 山口 知恵：伝統的な産業の持続と文化的景観の形成・創造に関する研究：小鹿田焼の里（日田市大字小野源栄町皿山）を事例として，建築雑誌 123(1579), 110, 2008-08-20
- 8) 後藤 治：歴史文化基本構想の策定とその課題（特集 文化財の総合的な保存・活用とまちづくり），月刊文化財 (544), 37-40, 2009-01
- 9) 中島 恒次郎：市民遺産としての文化財 - 大宰府の歴史文化基本構想（特集 地域の文化財を総合的に把握する），まちづくり (25), 30-34, 2009-12
- 10) 井澤 洋一：文化遺産の保存活用とまちづくり - 歴史的町並み活用を中心に，都市政策研究 (7), 111-121, 2009-03
- 11) 西山 徳明：我が国の文化財の新たな展開 - 文化財の総合的把握と歴史文化基本構想の役割について（企画調査の取りまとめから）（特集 地域の文化財を総合的に把握する），まちづくり (25), 20-29, 2009-12
- 12) Thomas F. King: Cultural Resource Management, 2002
- 13) Charles R. McGimsey III on Cultural Resource Management: CRM on CRM, 2004
- 14) 八百板 季穂，窪崎 喜方，西山 徳明：南太平洋島嶼国における近代都市としての景観の価値付け - フィジー国旧首都レブカの文化遺産マネジメントに関する研究（その 1），日本建築学会計画系論文集 75(652), 1455-1462, 2010-06
- 15) 白神 博昭，西山 徳明，姉川 泰久：文化遺産マネジメントによるまちづくりに関する研究：太宰府市における「空間文化財」に関する研究 その 8（都市計画），日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (45), 481-484, 2006-03-01
- 16) 軸丸 雅訓，西山 徳明，高口 愛，池ノ上 真一，高崎 恵子：岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究 その 2：伝統的建造物群保存地区における新たな工作物

- および環境物件の評価指標について, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (43), 237-240, 2004-03-01
- 17) 池ノ上 真一, 西山 徳明: 文化遺産の明確化とその管理状況: 沖縄県・竹富島における文化遺産マネジメントとツーリズムに関する研究 その1, 日本建築学会計画系論文集 (575), 61-67, 2004-01-30
- 18) 佐藤 睦美, 麻生 美希, 西山 徳明: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントとツーリズムに関する研究 その1: 観光との関わりによる文化遺産の分類, 学術講演梗概集・E-2, 建築計画 II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育 2007, 539-540, 2007-07-31
- 19) 池ノ上 真一, 西山 徳明, 高口 愛, 高崎 恵子, 軸丸 雅訓: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究: その3 文化遺産の明確化とその管理状況, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (43), 241-244, 2004-03-01
- 20) 池ノ上 真一, 西山 徳明: 文化遺産のマネジメントシステムの構築条件: 沖縄県・竹富島における文化遺産マネジメントとツーリズムに関する研究 その2, 日本建築学会計画系論文集 (612), 63-69, 2007-02-28
- 21) 高崎 恵子, 西山 徳明, 高口 愛, 池ノ上 真一, 軸丸 雅訓: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究 その4: 文化遺産の管理システムの現状とマネジメントの課題, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (43), 245-248, 2004-03-01
- 22) 八百板 季穂, 西山 徳明: ハワイ州ラハイナにおける文化遺産マネジメントと観光開発に関する研究, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (45), 469-472, 2006-03-01
- 23) 赤星 眞弓, 長野 麻里子, 八百板 季穂, 麻生 美希, 西山 徳明: 遺産観光地ハワイ州ラハイナにおける景観の形成に関する研究, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (47), 409-412, 2008-03-01
- 24) 佐藤 睦美, 西山 徳明, 麻生 美希: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究 その6: 観光との関わりによる文化遺産の類型化, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (46), 365-368, 2007-03-01
- 25) 麻生 美希, 水ノ江 秀子, 西山 徳明: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究 その7: 文化遺産の保存・整備の課題抽出と水路の演出設計, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (46), 369-372, 2007-03-01
- 26) 西山 徳明, 池ノ上 真一: 地域社会による文化遺産マネジメントの可能性: 竹富島における遺産管理型 NPO の取り組み, 国立民族学博物館調査報告 51, 53-75, 2004
- 27) 高崎 恵子, 西山 徳明: 岐阜県・白川村荻町地区における文化遺産マネジメントに関する研究 その5: 文化遺産マネジメント主体の分析, 日本建築学会研究報告・九州支部・3, 計画系 (44), 529-532, 2005-03-01
- 28) 丹青研究所: ECOMUSEUM - エコミュージアムの理念と海外事例報告 -, 2001
- 29) 木俣 美樹男: 環境教育プログラムの枠組みとエコミュージアム, 環境情報科学 21(2), 16-

20, 1992

- 30) 足立 宏之：自然との共生を求めて「青垣いきものふれあいの里」-新しいタイプのネイチャ-体験エコミュージアム（学習スペースの発見とその発想-時空を超えた生涯学習の場をクリエイトする〈特集〉）--（学習スペース発見の発想とアイディア），社会教育 49(4), p20-23, 1994-04
- 31) 藤原 道郎，鎌田 磨人，福田 珠己：フランスのエコミュージアム-ロゼ-ル山・エコミュージアムとグランドランド・エコミュージアムの事例を中心として，徳島県立博物館研究報告 (6), 1-38, 1996-09
- 32) 大原 一興，大月 敏雄，大野 敏：古民家の保存・活用のための方法論的研究-古民家の地域内保全と民家展示施設の考察，住宅総合研究財団研究年報 (26), 263-274, 1999
- 33) 永吉 守：大牟田・荒尾における近代化遺産保存にむけての市民運動--エコ・ミュージアム・文化観光・地域アイデンティティ構築への試み，九州民俗学 (2), 61-70, 2002-03-31
- 34) 加藤 将：地域社会におけるエコミュージアムの役割-地域と学校の連携を目指して（特集エコミュージアム），地理 50(12), 54-56, 2005-12
- 35) 佐藤 快信：地域づくりにおける地域連携と地域資源，長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要 1(1), 1-7, 2003-03-01
- 36) 大原 一興，加茂 慎司，月村 岳夫：軽井沢におけるエコミュージアム実現への課題と地域資産の実情：地域のエコミュージアム化に関する研究 その1, 学術講演梗概集・E-1, 建築計画 I, 各種建物・地域施設，設計方法，構法計画，人間工学，計画基礎 1996, 407-408, 1996-07-30
- 37) 石川 宏之，大原 一興：ミュージアム活動の視点から見た市民活動展開の条件：地域のエコミュージアム化に関する研究 その6, 学術講演梗概集・E-1, 建築計画 I, 各種建物・地域施設，設計方法，構法計画，人間工学，計画基礎 2001, 405-406, 2001-07-31
- 38) 石川 宏之，大原 一興：市民活動の実状からみたミュージアム活動の可能性に関する考察：地域のエコミュージアム化に関する研究 その5, 学術講演梗概集・E-1, 建築計画 I, 各種建物・地域施設，設計方法，構法計画，人間工学，計画基礎 2000, 425-426, 2000-07-31
- 39) 山崎 一真：地方歴史都市におけるエコミュージアムの形成に関する研究：連携による彦根でのまちづくり実践記録，滋賀大学経済学部研究年報 (16), 73-100, 2009
- 40) 山崎 一真：地方都市中心部におけるエコミュージアム構想の提案と実現課題，滋賀大学産業共同研究センター報 (No.08), 107-114, 2009-06

注釈

注 1) 取り組みがないわけではなく、日本エコミュージアム研究会 <http://www.jecom.jp/> などの組織によって憲章や理念の確立やそれらの啓発が図られているが、未だ普及段階であると言える。